えくてぃびぃあん

1
立川と語ろう　立川に生きよう
January 2008
écoutez bien Vol.26 No.278

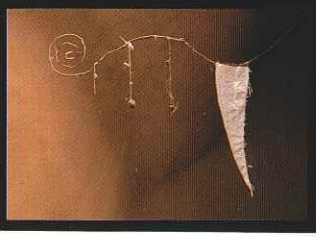
表紙の人／加藤愛寿美（柴崎町）　写真／細江英公

ステキな音が心を開く

写真：五来孝平

ここがタチカワ！
ここも立川！ ⑥

ロバハウス（幸町）



もしロバの音楽座を知らない方がいたら、ぜひその扉を開けてみるといい。時間の概念が吹き飛んで、時代の枠をはずしてくれる。「ガランピーポロンは魔法の言葉」。聴けば、自然に楽しくなって、自分の年も忘れてしまう。

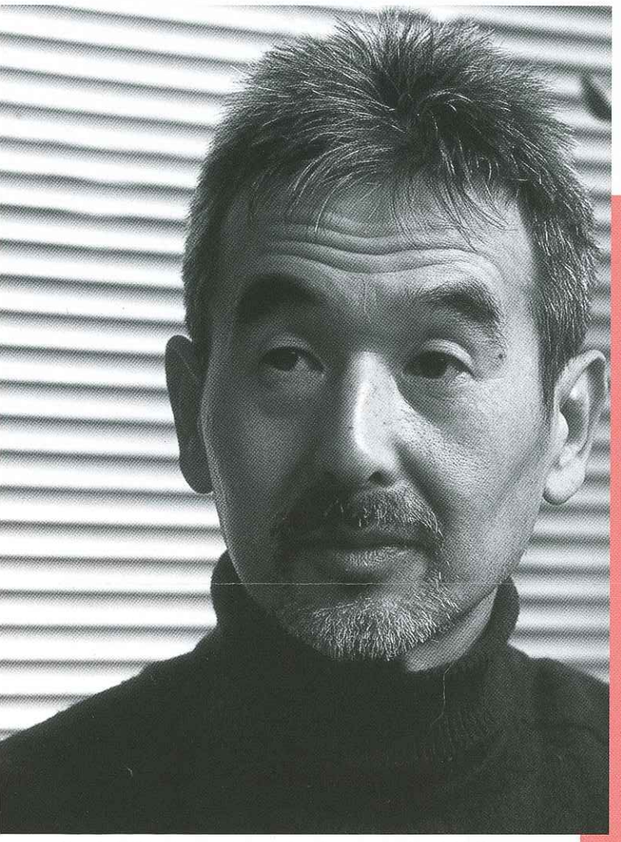
玉川上水のせせらぎに誘われて遊歩道を東に行くと、ポッと現れるふしぎな建物。ひさしのような屋根に花が咲き、窓をのぞけば楽器が見える。入り口には小さく「Roba house」の文字。ここはロバの音楽座、カテリーナ古楽合奏団の稽古場だ。月に一度はライブコンサートが開かれる。1973年、カテリーナ古楽合奏団が結成され、中世・ルネサンスの音楽を演奏する中で出会った「ロバの詩」。「下手な歌声、夜空に響き、全ての人を優しく包む、You are ロバさん」の歌詞に、千年前のロバ君からのメッセージを感じとった。「音楽はテクニックばかりではないよ」「もっとゆっくり」「心に豊かな森を」というメッセージ。そこでできたのが「ロバの音楽座」。ちょうど25年前、1982年のこと。

2004年からはNHK教育「パンツぱんくろう」「からだであそぼ」の音楽を担当し、「ゲド戦記」の音楽にも参加した。2007年10月27日、28日には青山円形劇場で「ロバ祭」が開催され、詩人の谷川俊太郎から新しい「ロバのうた」も贈られた。

バグパイプやクルムホルン、リュートもサズもリコーダーも、足踏みオルガンや太鼓など、どの楽器からも優しく温かい音色が流れてくる。確かな技術に支えられた心の音は、どんな人の心も開く。立川のひとつの誇り、ロバハウス。

ゴールが見えた瞬間……最高ですね

4日間で1200km、自転車で完走した
小林 和夫さん



於：上砂町「アトリエ A&M ともやす」で　写真：中村 伸

■小林 和夫（こばやし・かずお）／昭和三十（一九五五）年埼玉県生まれ。ジュエリー制作者として三十年来、上砂町の友安昭・真智恵夫妻のアトリエで一緒に仕事をする。本格的に自転車を始めて約五年。自宅のある埼玉・飯能と立川の間をほぼ毎日、自転車で通っている。

■芳賀 敏博（はが・としひろ）／えくてびあん編集長

芳賀　うかがったら、小林さんは僕と同じ年のお生まれなんですね。僕も自転車に少し乗りますけど、4年に一度開かれる、4日間でパリ～ブレスト～パリの合計約1200kmを自転車で走破するという苛酷なレースに出て完走というのは、ふつうはちょっとできないなと思います。

小林　タイムや順位を競うレースとはちょっと違うんです。2007年大会は8月20日夜から24日まで開かれましたが、実質4日、合計90時間以内に自分だけの力でパリ・ブレスト往復の全行程を走り切る。フランス語でランドネといいますけど、いわば超長距離耐久サイクリングです。その中でも4年に1回開かれる「パリ・ブレスト」は19世紀末からの歴史があり、ランドネの最高峰とも言われているんです。お菓子の名前になっているくらいですから（笑）。

芳賀　そういう大会に参加するからには、小林さんの自転車歴も長いんですか。

小林　本格的に始めてからは5年くらいです。きっかけは、いま流行のメタボ（笑）。座っている仕事ですから年齢とともに体力が落ちているのが気になって、最初はランニングをしたんです。そうしたら膝を傷めまして、自転車ならいいだろうと……。

芳賀　それがこういう大会に出るところまできた。

小林　自転車を始めてインターネットでいろいろ情報を探していたら、年齢も同じくらい、体格もそんなに変わらなさそうな方がいろんなレースに挑戦して報告されているページがあったんです。それなら僕でもできるかもしれないと、レースに参加するようになりました。「パリ・ブレスト」も自転車雑誌で見て出られたらいいなと漠然と思っていたんです。

芳賀　思ったからといって、誰でも参加できるわけではないんでしょ？

小林　主催は「オダックス・クラブ・パリジャン」というフランスの非営利団体なんですが、その支部が各国にあり、日本でも何カ所かで200km、300km、400km、600kmの実力認定大会（ブルベ）があります。「パリ・ブレスト」開催年に200、300、400、600kmの全ブルベを走り切ると本大会の参加資格ができます。出たとこ勝負ができるほど甘い大会ではありませんから、ある程度経験を積んでいないとだめだということなんですね。

芳賀　聞いているだけですごそうですけど、実際に参加されてみて、いかがでしたか。

小林　途中のルデアックという所にバスをチャーターしてドロップバックや仮眠場所を準備してくれるんですが、補給食や自転車のスペアパーツ、修理道具などの装備は全部自分で運ばないといけない。サポートは最低限で、あとは全て自己責任という考え方が徹底しているんです。コース標識の矢印はあっても夜は道に迷いやすいですし、全コースほとんど坂の上り下りの連続。舗装状態も良くない。僕は奇跡的に全行程パンクしなかったんですがパンクは当たり前で、自分で修理しないといけない。天候もスタート当日からずっと雨で8月とは思えない寒さの中。大会史上でも珍しいという悪コンディションだと言われました。世界中から約5300人が参加して日本からは約100人。そのうち完走は約3700人です。往路を走ってブレストでリタイアした人が多かったのもコンディションが厳しかったからでしょうね。

芳賀　1200kmを90時間で走るとなると平均時速13kmくらいですよね。その間に眠ったり食事もしないといけないとなると、数字の上だけでも大変だと想像がつきます。

小林　500人ずつスタートして、僕たちがスタートしたのは午後10時55分。それから夜中もずっと走って、次の日21日の日付が変わる頃、ルデアックのベースキャンプに着くまで眠りません。そこで4時間ほど眠ってまた走る。コントロールポイントのレストランは24時間開いていて休んだり食事もできますが、各コントロールポイントごとにクローズド時間が決まっていて、それまでに通過しないと失格。ゆっくりはできないんです。いよいよ疲れるとベンチとか電話ボックスを探して仮眠しますが、その辺の草むらで寝ている人もいます。石畳とか舗装のひどい道路が多くて尻は痛いし、脚や腕がしびれるのも苦痛ですけど、やはり眠れないのがつらかったですね。僕は最終日の前夜、連日の睡眠不足と寒さのために、とうとう走れなくなりました。あるだけのものを着込んでも寒くて動けないんです。さいわい日本から参加している方がたまたま通りかかって使い捨てカイロを分けてくれて、体を温めることができ、それでなんとか回復して走り切れましたけど……。

芳賀　そういう思いをしても、やっぱりゴールしたい。

小林　リタイアしたらかえって大変だということもあるんです。なにしろ、幹線道路から少し外れたところを選んだコースですから交通の便が悪い。パリに戻るのも自己責任で、リタイアしたらヒッチハイクをして運良く拾ってもらうか、最寄りの鉄道駅までたどり着いて自転車と一緒に乗るしかないんです。もちろん自分で運賃を払って。最終日はちょうどドイツ人で二人乗りのダンデムで走っていた参加者がいて、イタリア人の参加者と私でその後につきました。二人乗りなのでスピードが速くて、ついていくのは大変でしたけど、先行車があると空気抵抗が少ないのと、このチームについていけば大丈夫だろうという安心感があるんです。パリに戻って、ゴールが見えた瞬間が……やっぱり最高ですね。もう大丈夫だ、時間内にゴールできそうだ、ゆっくり眠れる（笑）。

芳賀　極限に近い経験があるから、なおさら完走は嬉しいんでしょうね。

小林　そこが順位を争わないランドネの素晴らしさなんです。とにかく無事ゴールしただけで互いに祝福し合える。途中の苦しさを知っている参加者同士、ほんとうに自転車の仲間なんだと思えるんです。それに、フランスの村々を縫うようなコースのどこでも、住民の方たちが大会を楽しみに待ってくれている。カフェはいつでも開いていてコーヒーが美味しい。一般道を走るんですが、後ろから来たトラックが見通しのいいところまでは追い越さずに待ってくれます。初めての経験でしたけど、ヨーロッパ、特にフランスの自転車文化の奥深さも感じましたね。

錦町

そば処 高尾亭	錦町5-5-31	522-2710
Natural Food Restaurant シェいなば	錦町5-19-9	529-5921
エステランテ ロズまり	錦町5-19-9-2F	529-3037
リストランテ ラ・ポポラリータ	錦町6-9-25	527-3880
高齢者総合施設 至誠ホーム	錦町6-28-15	527-0031

羽衣町

額縁 額縁専門店 プリムベール	羽衣町1-18-8	528-6789
多摩信用金庫 東立川支店	羽衣町1-19-6	524-0611
Cake Studio 35	羽衣町2-6-1	527-6808
林歯科	羽衣町2-7-10	522-5657
中島豆腐店	羽衣町2-12-34	522-5732
フレッシュフルーツ 立川商店	羽衣町2-30-6	522-3565
化粧品 OZAWA	羽衣町2-31-1	522-3749
本・事務用品 泰明堂	羽衣町2-31-1	522-3353
文具の ないとう	羽衣町2-33-1	522-3677
テーラー安武	羽衣町2-33-11	522-4820
株式会社西友 西国立店	羽衣町2-40-1	524-5101
赤松タバコ店	羽衣町2-42	524-7852
まごころ銘茶 狭山園	羽衣町2-45-1	527-0146
美容室 ヒロイン紅	羽衣町3-2-4-1F	526-0018
蕎麦処 かめ井	羽衣町3-2-17	524-8101

えくてびあんの輪

立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあんは
リストのお店にいつもあります

今月は 錦町・羽衣町・柴崎町のお店です。

羽衣町

お好み焼きともんじゃ こけし	羽衣町3-3-13	526-1267
パスタビーノ はしや	柴崎町2-1-6-B1	521-3386
味乃 寿司由	柴崎町2-2-8	522-3733
株式会社 一心堂	柴崎町2-2-16	527-3777
すがの歯科	柴崎町2-2-16-2F	540-2675
紙匠 雅	柴崎町2-2-19-1F	548-1388
ビストロすぎ浦	柴崎町2-2-23-1F	525-9929
トントン串揚割烹	柴崎町2-3-3	524-4521
ステーキ&欧風料理 クワトロ	柴崎町2-3-3	528-2983
Pasta Frolla 立川南口店	柴崎町2-3-3	540-8033
レンタルスペース&雑貨カフェ 夢工房	柴崎町2-3-3-2F	843-7818
甘味処 石や	柴崎町2-3-15	524-0862
不動産 コマツホーム	柴崎町2-4-6	525-5811
喫茶 キャリー	柴崎町2-4-7	528-2630
芹沢ガラス店	柴崎町2-4-8	522-3065
かみゆい処 わ	柴崎町2-4-8	522-8202
ファッションハウス ホマレヤ	柴崎町2-4-15-1F	525-2788
ジョイフルプラザ スクエア	柴崎町2-4-17-1F	528-4250
服地・洋裁材料 藤レディース	柴崎町2-4-19-1F	528-5101
サイクルハウス 輪輪館	柴崎町2-12-17	522-8100

3日間の子どもだけの街

たまがわ・みらいパーク「ミニ立川」

11月、たまがわ・みらいパーク（旧多摩川小学校）に子どもの街が出現した。
小学生が自分たちで計画し準備をして運営する「ミニ立川」。
市役所や銀行があり、独自の通貨「ミニタ」まである。
3日間の子どもだけの模擬都市。来年はもっと素敵で大きな街に育つだろうか。

写真：五来孝平

窓の向こうはすぐ多摩川。富士山も良く見える

これが「ミニタ」紙幣

準備作業も子どもスタッフ中心で

たまがわ・みらいパークは、統合で空き家になった小学校の建物を活かした子どもたちのための場。企画運営は市民主体の、たまがわ・みらいパーク企画運営委員会が中心になり、立川市も協働事業として協力している。ガランとした空き校舎に、寄付してもらった椅子や机などを備え、地域の人たちの協力で子どもたちがいつもやって来られる態勢がようやく整ってきた。11月23日から25日までの3日間は、活動のお披露目を兼ねた「たまがわ・みらいパークまつり」。ミニ立川は、そのメインイベントだ。

街を切り盛りする主役は、公募で集まった小学生13人の子どもスタッフ。7月から、どんな街にしたいかを話し合い、ワークショップを通じて街の成り立ちや実際にどのような役所や会社、お店を作るかを考え、学生などの大人スタッフの力も借りて、かつての教室を建物に見立てて、小さな街に作り上げた。

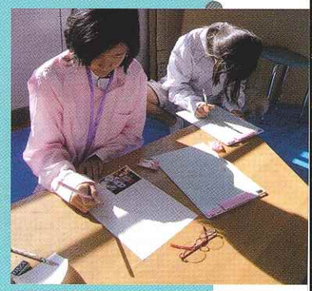
街にあるのは市役所、銀行、職業紹介所、洋服屋、新聞社、写真工房、そして多摩川博物館。街にやってきた子どもは市役所で住民登録をし、ミニ立川の通貨「ミニタ」を扱う銀行で当面の生活費4000ミニタを受け取る。職業紹介所で自分のやりたい仕事を選んで働きスタンプをもらうと銀行で通貨に替えてくれる。ミニタはそれぞれの店の洋服やカメラ、写真撮影に使えるだけでなく、ポップコーンや他の売店の買い物にも使える。街の出来事は新聞社の記者が取材し、三輪車で新聞を街中に配る。

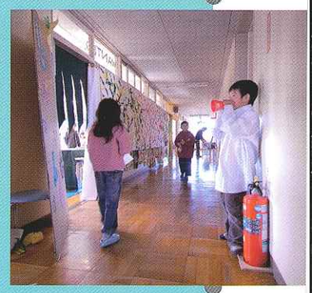
布を切って首の穴を明け好きな絵を描いたポンチョ型の洋服、牛乳パックにレンズを貼付けた手作りカメラ……それぞれの店の商品の作り方を指導するのも、新聞の記事をまとめるのも、子どもスタッフ。大人のスタッフは裏方に徹し、やってきた子どもたちの父兄は電車ごっこのような観光ツアーで街を見学するだけ。3日間は子どもだけの街なのだ。

ミニ立川のヒントは、ドイツ・ミュンヘンで30年近い実績のある「ミニミュンヘン」。設備や重要な部分は大人がお膳立てするミュンヘンと違い、ミニ立川は企画から実際の街づくりまで子どもが主役になる。見てくれはちょっと悪かったり、おおざっぱなところはあっても、子どもどうしで教え合ってなんとか形になる。何といっても楽しそうだ。そういえば、こういうふうに遊びながら世の中のことを学んだ時代があったのだっけと思い出す。

仕事をしたらスタンプを押してもらう

牛乳パックのカメラづくり


新聞記事を書く



立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ
多摩てばこネット
http://www.tamatebako-net.ne.jp/
多摩てばこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武藤ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄
真如苑提供番組<じょうらくがじょう>
スカイパーフェクTV 216ch
マイ・テレビ 11ch
放送時間については番組表をご確認ください。
立川に育てられて七十一年
真如苑
柴崎町1-2-13 Tel.527-0111(代)

MIZUHO
みずほ銀行
豊富な
ラインアップで、
お客さまの
資産運用ニーズに、
〈みずほ〉はおこたえします。
●ご相談はお近くのみずほ銀行へ。

大廣社は今、「知的集約」型企業を実践しています。
伝達を使命とする情報産業の一翼を担う大廣社は、新しい時代の新しい表現を責任持って拓くために、クリエイティブから最終製品にいたるまでの一貫体制を構築しています。
先進のシステムと最新技術との融合
株式会社 大廣社
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
tel.042-527-1911
fax.042-527-1949
E-mail info@daikousya.jp
http://www.daikousya.jp/index.htm

えくてびあん流

「昭和」の中に恐竜時代を探す

昭和天皇記念館壁面の化石

国営昭和記念公園・花みどり文化センター内にある昭和天皇記念館で、壁面の化石に解説プレートをつけた展示をしている。

同記念館には大理石が壁や床に使われているが、壁はドイツ産のジュラ紀の大理石、昭和天皇の生物学御研究所を復元したコーナーの床面はイスラエル産の三畳紀のものだという。恐竜が地球の主だった太古の時代、当時の海で閉じ込められた生き物の化石が、磨き出された面に顔を出している。

アンモナイトや絶滅したイカの仲間のベレムナイト、海綿などのほか、ゴカイなどが泥を這い回った跡がそのまま化石になった「生痕化石」なども。生物学者でもいらっしゃった昭和天皇を記念する展示の間で、古代生物の化石を探すのもまた、興味深い。

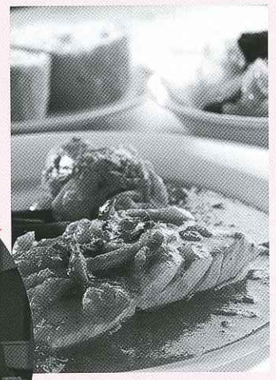
同記念館では2月17日まで、昭和天皇が戦後の地方巡幸に使われた御料車、通称「赤ベンツ」の実物やお召列車の調度、模型、写真や行幸誌などの資料による特別展示「昭和天皇と戦後の地方巡幸」も開催中。月曜・年末年始・公園施設点検日休館、一般500円。

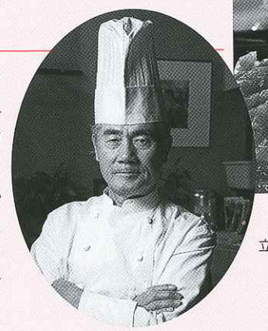
この人この店 ㊹

フランス風家庭料理

ラ・フランス

萩原　賢さん





三ツ星レストランが大流行りの昨今、18年間変わらない味で満足させてくれるお店があります。「お客様の好みが変わることはありますが。でも、こちらは変えようがないですからね」と、おだやかに応えてくれる萩原さん。小さなレストランをずっと一人で切り盛りしています。いつ行っても「ああ、この味！この味！ やっぱり美味しい！」とうなずけるのが嬉しいです。あまり待たないうちに料理が出てくるのにはいつもびっくり！「料理はだんどり」と、さすが45年のキャリアはすごい。おすすめはビーフシチューですが、今回はランチメニューのお魚料理〈目鯛のプロヴァンス風〉。この味、どうやって作るのかな？ なんて思ったけれど、こういう美味しいものはやっぱりレストランでいただきたい。パリには常連さんが通う家庭的なお店があるけれど、立川は曙橋の交差点で、パリの雰囲気を味わったようでした。

〒190-0012
立川市曙町2-11-8 スカイビア立川6F
TEL 042-529-5522
営業時間　11:30～14:00
17:00～21:00(L.O)
定休日　特になし

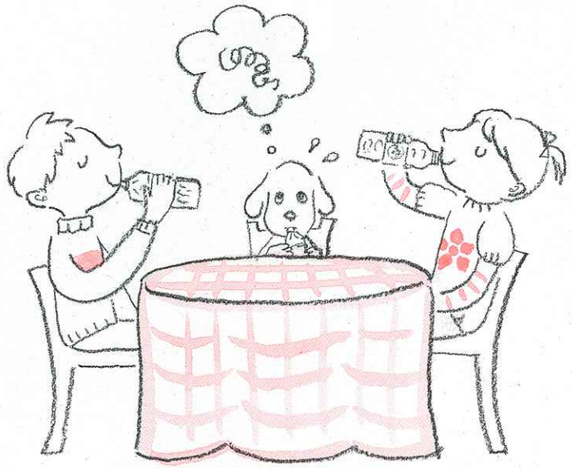
写真撮影：五来孝平

立川のお作法

中野 豪清

第6回

接客



挿画：綾 幸子

所用で家内と知人の家を訪ねた。部屋に通され挨拶が済むと、ちょっと待ってねと知人は席を立った。しばらくするとお茶のペットボトルを3本持ってきて、どうぞと渡された。知人は手本を示すように、平然と栓を開けペットボトルに口をつけて飲み始めた。私たちもそれに倣って、ペットボトルに口をつけ上を向いてゴクッと飲む。決して上品な姿ではない。

茶碗かコップを添えてくれたらと思う。そして帰り際に、栓を締めればこぼれないから持って帰って下さいという。テレビコマーシャルやアニメ等の影響だろうか。今様なもてなし方、おかしいと思うマナーであっても、繰り返し目にし耳にすると、それが当たり前となり習慣になり、常識となっていく。良い日本の礼儀作法が、安易さ便利さを求めるが故に消えていく。お客を迎えるということは気遣いの多いことであるが、だからといってなおざりにしてよいということではない。良い接客マナーを常識として知っていたいものだ。

まず客に合わせた雰囲気作りをすることに心がける。玄関はその家の顔であり、トイレは隠れた部分。玄関、部屋、トイレの掃除は怠りなくしておく。寒い時の火は何よりのごちそう。暑さ寒さの対策に心がける。来客によっては照明などに留意するのも大事。夜の訪問者は各部屋の灯りを点しておく心遣いがほしい。来客より控えめな服装をするのもさりげない気遣いのひとつ。女性が一人でいる時の男性の来客は、知人でも部屋には通さない方がよい。その逆も同じ。

玄関ではお迎え取り次ぎの態度を大切に。履物が乱れている場合は、お客を部屋に通してから家の人が揃える。座席は原則として、誰に対しても上座を勧めるが、お客が部下の時は無理して勧めない。和室にお客をお通ししたら、案内した人が座布団や椅子を勧める。人を紹介する順序は、上位の人に下位の人を紹介して後、下位の人に上位の人を紹介する。

玄関先でお茶を出すにはお盆に載せたまま、部屋やテーブルの場合は茶托ごと出すとよい。手土産は、誕生祝いのような個人に対しての贈り物はその場で開けて喜ぶ。また食べ物でその場で開けたものはその場で出すようにし、別室に下げたものは客にはださない。

客が帰るとき、コートなどは室内で着るように勧める。着せ方は、右手から左手、次に両肩の順に着せる。玄関では履物を整える。左右10センチくらい離すと履きやすい。靴の方には靴べらを渡す。お見送りは玄関までは家の者が先に歩き、玄関を出たら客が先に歩く。客が帰ってすぐ玄関の鍵をかけたり、灯りを消したりはしない。客の帰るのを待っていたかのような、また追い出されたような不快感を客に与えるからだ。

表紙の人

加藤愛寿美さん（柴崎町）

「和」ブームなのだという。歌舞伎や落語に人気が出てきているし、和食が見直され古い日本家屋や伝統工芸を紹介する雑誌やテレビ番組も花盛り。和服姿の女性を見ることも多くなった。和服姿の髪を飾るのは、やはり簪（かんざし）。きれいな布を使って小粋な「つまみ簪」を作る若き簪作家がこの方。「和」好きは小さい頃から。美術を学んだ後、奈良で和裁を専門的に学んでいるうちに出会ったのが「つまみ簪」。日本女性の髪を彩ってきた簪に、シックでいて若々しい感性を盛る。ご本人が挿しても、一段と美しい。

諏訪神社で　写真：細江英公

かたこと

明けましておめでとうございます▼平成20年、西暦2008年初の『えくてびあん』をお届けいたします▼今年の干支は戊子（つちのえね）。深い意味は知りませんが十二支が一巡りして子年になると、例年に増して何やら改まった気がします▼昔の人は数えで一歳加わる正月を命の改まりと見たようです。時代は変わっても正月飾りやお供えを見るとシンと厳粛な気を感じます▼表紙は若い加藤愛寿美さんにお着物でご登場いただきました。撮影場所は諏訪神社境内。若やいだ淑気が伝わるでしょうか▼寒さの中でも伸びて行く芽の若々しさ。それは次の時代を作っていく子どもたちについてもいえるでしょう▼VIEWは旧多摩川小学校「たまがわ・みらいパーク」に集まった子どもたちの活動をご紹介しています▼若さは必ずしも年齢によるものだけではない。新しいこと、困難なことに挑戦していく心は、若者です。1200kmを自転車で走り切った小林和夫さんの対談、同年の編集子にはきらきら輝いて見えました▼地球全体が温暖化していると言われますが、寒を迎えるこれからはやはり寒さの本番。皆々さま風邪などに負けませんよう、ご自愛くださいませ。えくてびあんも新たな気持で、がんばりたいと存じます。（芳）

スタッフ
編集　大久保清志／清水惠美子／中薫子
デザイン　池田隆男（WATER DESIGN ASSOCIATES）
AMNET design factory
写真　五来孝平／中村 伸

えくてびあん (C) 1月号
第26巻 通巻278号
平成20年1月1日発行
発行　えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
編集人　芳賀敏博
発行人　加賀悦也
印刷　(株)大廣社

無断転載を禁じます。

ピエロ

どんな時もそばにいるよ。声こそださないけれど、僕はなんでも知っている。嬉しいことは一緒に笑い、悲しいことは一緒に泣こう。君のために僕はいる。

輝きのメルヘン

ともやす
ジュエリーコレクションから

最終回

フィギュリーン

最終回はともやすジュエリーならではの〈フィギュリーン〉。創立当初から続いているシリーズだ。繊細なフォームは常に美しく表情豊か。ちりばめられる宝石のひとつひとつにも、友安夫妻の作品への愛情を感じる。

写真：五来孝平

妖精

まだほの暗い森の中。耳をすませば聞こえてくるはず、花の精たちの笑い声。朝露は妖精たちのお気に入り。日が昇るまでのファンタジー。